

思い出の一句 春光や鯉の背びれの水面切る

前田秀一



小川誠二郎さん（「金剛俳句会」初代指導者）から誘われて（おだてられて？）金剛俳句会に入会し、いざ投句となった段階で発句が思うようにまとまらず、随分焦り苦労しました。

投句して返ってきた小川さんの句評には、文語文法用語を駆使して、あれこれ丁寧に説明していただき、思わず1年生の国語時間帯での山本初枝先生のご指導を思い出し頭を抱え込みました。

大阪市立大学受験浪人中、小川さんをはじめ1年5組（廣田ホーム）の同級生諸氏に励まされ、勢いを得たことを思い出し、覚悟を決めて中岡毅雄 2011『NHK 俳句・俳句文法心得帳』NHK 出版を購入して繰り返し読んで学びました。

それから以後、小川さんの句評が届くとこの本を横において首っ引きで学びました。

回を重ねるうちに、お褒めの言葉をいただけるようになり嬉しくなってきたことが忘れられません。

金剛俳句 第八回 兼題：春（平成二十六年四月）

水温み鯉の背びれの水面切る ⇒ 春光や鯉の背びれの水面切る 秀一

選句：◎○○○○

<句評>

いいところを捉えています。

「水温む」と「水面切る」では付き過ぎの感じが出ますので、少し離れた季語にしましょう。

「春光や鯉の背びれの水面切る」でいかがでしょうか。

その後、第9回（平成26年5月）ころからこの句評が届くまでにしばらく時間がかかるようになり、どうしたのかな？と思案していたところ、近況の知らせがあつて、最後に「・・・鯉の背びれの水面切る」の句はよく出来ていたと書き添えていただいたことが最後となりました。